

もう一度見直そう・魚介類養殖の基本

3年前ほど前からJIFASの新入会員の方が増えております。養殖の基本を知るため、ここに1996.9.24-10.23の1か月間、養殖先進国フランス、イギリス、ノルウェー、オランダ、アメリカと5か国20か所について調査した報告書があります。報告者はJIFASが最初に循環式陸上養殖を共同研究した、北海道立工業技術センターの吉野博之氏です。

近年、沖合では魚資源の枯渇、海面養殖では過密養殖による環境汚染や抗生物質の過剰投与が指摘されている。一方、陸上ではきれいな水を大量に確保するのは困難になってきており、また、排水による環境汚染に対しても年々厳しくなっている。このような状況の中では、水を循環浄化させて使用し、かけ流し式(オープン方式)に比べて使用水の管理も容易な循環式陸上養殖がベストな方法であると考えられる。

今後、日本で循環式陸上養殖を行う上で特に周辺の装置として必要な技術について下記にまとめた。下記中、日本の技術で不足しているところは、欧米の技術を導入したり、新たに開発する必要がある。特に、餌や電気代などのコストは欧米に比べ2~3倍になっており、低ランニングコストのものを開発する必要があると考えられる。

日本の場合は養殖場は水産、漁業者によって運営されているが、欧米では農業関係者やエンジニアの場合が多い。そして、養殖をひとつの有望なビジネスとして事業展開している。養殖といえばこれまで漁業を支える一つの方策というイメージが強かったが、資本とサポートしてくれるコンサルタントがいれば誰でも参入できるビジネスなのである。

